

一秒に想いを込める

昔、先生がまだ小学生の頃、担任の先生が一枚の写真をもってこう言いました。

「この写真の2枚の紙には『ありがとう』と『ばかやろう』と書いてある。どっちがどっちか分かるか？」

先生が見せた写真には、2枚の紙をひたした水を凍らせた氷が写っていました。一方は透明に澄んだ氷ができており、もう一方は中に紙が入っているのか分からないほどに白く濁った氷ができていました。担任の先生はさらにこう続けました。



「言葉には力がある。良い言葉は、良い影響を、悪い言葉は、悪い影響を与えるんだ。この写真は、言葉のもつ力が水に伝わり、影響を与えた結果だな。良い言葉は、みんなの心も澄んだ気持ちにさせてくれる。逆に、悪い言葉は、みんなの心を濁らせるんだ。」

その言葉と、写真の圧倒的なイメージは、子供だった先生の心に恐怖とともに残りました。しばらくして、その写真自体は偶然の産物（科学的な根拠のあるものではない）と分かりましたが、あの先生の言葉を嘘だと笑い飛ばすことはできませんでした。その頃にはすでに、言葉のもつ力を存分に感じていたからです。言葉は、たとえ氷の状態を変えることはできなくても、人の心は十分変える力をもつものだったのです。

学校が休校になり、道徳の授業ができない代わりに何かいい話はないだろうかと考えたとき、この担任の先生の話が思い出されました。みなさんが家で教科の学習を進めているように、今日は学年通信を通して、みなさんと道徳のように心の授業をしたいと思います。道徳の教科書には「おはよう」という読み物も載っています。この通信を読んだ後で、道徳の教科書に載っている「おはよう」も、ぜひ読んでください。

「おはよう」「さようなら」といったあいさつは、頻繁に使う言葉です。このあいさつの大切さを詠った詩に『一秒の言葉』という小泉吉宏さんの詩があります。時計で有名な企業の「SEIKO」がCMに起用したことで、広く知られるようになった詩ですが、CMが放送されたのは1980年代のことなので、みなさんは知りませんよね。この詩は、こんな言葉から始まります

「はじめまして」 この一秒ほどの短い言葉に 一生のときめきを感じることもある

「はじめまして」という、時間にすればたった1秒ほどの言葉が、自分や相手の心にどんな与える影響か、端的に表現されていると思いませんか？ 詩では他にも「ありがとう」や「頑張って」「おめでとう」という言葉にも触れられています。みなさんだったら、この言葉をどう説明しますか？ 空欄に当てはまる言葉を、自分なりに考えてみてください（最後にインターネットで詩を調べてみましょう）。

「ありがとう」 この一秒ほどの短い言葉に

「がんばって」 この一秒ほどの短い言葉に

「おめでとう」 この一秒ほどの短い言葉に



あいさつを含むすべての言葉には、強い力があります。その力で、人の心を明るく幸せにすることもあれば、暗く不幸にしてしまうこともあります。詩の中にある「ありがとう」「おめでとう」も「むかつく」「ウザイ」も、同じ一秒の言葉。わずか一秒で言える短い言葉を、「花束」にするのか「ナイフ」にするのか。言葉の使い方、あいさつの大切さ、今日は自分なりに考えてみましょう。